

民生福祉常任委員会記録

平成30年11月21日

【開催日】 平成30年11月21日

【開催場所】 小野田保健センター 健康増進室

【開会・散会時間】 午後1時30分～午後2時20分

【出席委員】

委員長	吉永美子	副委員長	山田伸幸
委員	大井淳一郎	委員	杉本保喜
委員	恒松恵子	委員	松尾数則
委員	矢田松夫		

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰		
----	-----	--	--

【執行部出席者】

福祉部長	岩本良治	福祉部次長兼高齢福祉課長	兼本裕子
福祉部次長兼国保年金課長	桶谷一博	健康増進課長	尾山貴子
健康増進課課長補佐	銭谷憲典	健康増進課主査	大海弘美
健康増進課健康企画係主任主事	田中裕介		

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	議事係主任	原川寛子
------	-----	-------	------

【付議事項】

1 所管事務調査 急患診療について

午後1時30分 開会

1 所管事務調査 急患診療について

【議事の概要】

- ・急患診療所の開設状況、平成29年度月別利用状況、歳入・歳出状況の説明
(詳細は別紙資料参照)

【主な質疑】

杉本保喜委員 中学生の受診率はどれぐらいか。

尾山健康増進課長 年齢別のものは今手元にない。

銭谷健康増進課課長補佐 中学生は内科になるが、去年は22人の2.5%で割合としては少ない。

矢田松夫委員 一人当たりの診療時間はどれぐらいか。

田中健康増進課健康企画係主任主事 インフルエンザで吸入薬がある場合は時間が掛かるが、平均的には一般の診療と変わらない。

矢田松夫委員 軽症の方が対象なので、時間はそんなに掛からないのではないのか。10時半まで何をしているのか。

田中健康増進課健康企画係主任主事 内科は患者数が少なく、時間帯も夜19時から20時ぐらいが一番多いので、待機がメインになる。

松尾数則委員 三つの医療圏があるということが、美祢に行くことはないのか。

尾山健康増進課長 一次救急は把握していないが、二次救急は美祢も圏域の中で一緒にやっている。

杉本保喜委員 薬は何日分渡しているのか。

銭谷健康増進課課長補佐 1日分だけである。

恒松恵子委員 一次救急であれば医者が薬剤師の仕事も兼務できると聞いたが、薬剤師は必要なのか。

銭谷健康増進課課長補佐 インフルエンザなどで患者が多い場合や子どもの吸入がある場合は手が足りないので、薬剤師も頼んでいる。

吉永美子委員長 薬剤師は一人なのか。

銭谷健康増進課課長補佐 基本的には一人だが、体制が取れるときは二人のときもある。

矢田松夫委員 患者数が少ない、診療時間も掛からない、建物も古いという状況で、なぜ市民病院で急患診療ができないのか。

尾山健康増進課長 市民病院とも協議した結果、現状では難しいという結論となった。理由として1点目、レントゲンや薬剤を使用する場合、管理上の問題で市民病院の職員でないと利用できない、そうすると人員を増やす必要があるが、費用対効果を考えたときに難しい。2点目、市民病院で一次救急もするとすると、二次救急に弊害が起こる可能性がある。

矢田松夫委員 別々の組織で別々の対応を今後も続けていくということか。

尾山健康増進課長 医師会内部でも在り方を協議されている。医師の人数の問題もあるので、今後病院や医師会と協議していきたい。

矢田松夫委員 医師会では市民病院でやることに了承しており、市の回答待ちなのではないか。

尾山健康増進課長 それは聞いていない。

大井淳一朗委員 急患診療所は厚狭郡医師会の医師もいるのか。

尾山健康増進課長 小野田医師会の先生が中心だが、厚狭郡医師会や山大の先生にも一部手伝ってもらっている。

大井淳一郎委員 広域化の協議はどこまで進んでいるのか。

尾山健康増進課長 協議がどの程度進んでいるかは把握していない。

山田伸幸副委員長 市には小児科医が少ないが、小児科医だけで対応しているのか。

尾山健康増進課長 大学や労災病院に協力してもらっている。

山田伸幸副委員長 休日の小児科は何名の医師で対応しているのか。

銭谷健康増進課課長補佐 14人である。

山田伸幸副委員長 平日の夜間に小児科の患者が来た場合、内科医が診察しているのか。

尾山健康増進課長 把握している限りはない。恐らく宇部に行っているのではないか。

山田伸幸副委員長 インフルエンザがはやっているとき、応援はお願いしていないのか。

尾山健康増進課長 薬剤師と事務は、流行期が予測できれば2名体制を取る手配をしている。医師についてはこれまで応援の先生に来てもらった例もある。

吉永美子委員長 二次救急に紹介した率はどのくらいか。

尾山健康増進課長 紹介状の件数で言えば、年間40件程度と記憶している。

吉永美子委員長 インフルエンザが疑われる場合、どう判断しているのか。

尾山健康増進課長 急患診療所の一番奥の部屋が感染症の疑いがある患者の待合室になっており、空いていればその部屋で待ち、ほかの感染症の疑いの患者がいれば、車等で待ってもらう。検査の順番が来たら奥から入るようになる。

大井淳一郎委員 検査をしてから振り分けるのか。

岩本福祉部長 電話や来られた際に症状をまず聞き取り、インフルエンザシーズンで高熱があれば、そのような措置をする。

大井淳一郎委員 インフルエンザかどうかの判断は難しいと思うが、ほかも同じような対応なのか。

岩本福祉部長 開業医でも個別に待合室があるわけではない。急患診療所も医師や看護師が判断して、危険がないように対応している。

吉永美子委員長 看護師は常駐している人がいるのか。

尾山健康増進課長 様々な場所に所属している看護師に個別に委託している。

山田伸幸副委員長 医師と看護師が初めての組合せというのがよくあるのか。

尾山健康増進課長 限られた人数なので、慣れた方がローテーションで回っている。

杉本保喜委員 どこも看護師不足だが、欠員になることはないのか。

尾山健康増進課長 聞いたことはない。

吉永美子委員長 市として急患診療所をこれからも続けるべきという考え方か。

尾山健康増進課長 もともと急患診療所ができた経緯は市民病院や労災病院の夜勤の先生の負担を少しでも軽減するために、二次救急まで必要のない患者を診ようということから始まった事業だと聞いている。二次救急を支えるためにもこのような体制が必要であると考えている。

吉永美子委員長 急患診療所から救急車で二次救急に行くこともあるのか。

尾山健康増進課長 去年は1件救急搬送している。

山田伸幸副委員長 利用人数が年々増加しているのは、市民に周知されたということか。

尾山健康増進課長 周知の効果もあるが、高齢化により患者が増えているのもあるかもしれない。

吉永美子委員長 開設したのは昭和56年か。

尾山健康増進課長 小野田保健センターが建ったのが昭和56年で、急患診療所が始まったのが平成5年9月である。小児科の休日急患ということで、当時は保健センターの中に開設されていた。今の体制になったのが平成22年で、内科が加わり、山陽小野田市急患診療所で事業を開始している。

山田伸幸副委員長 外科の患者も来るのではないか。

尾山健康増進課長 ほとんど来ない。

杉本保喜委員 現在、何か大きな問題を抱えているのか。

尾山健康増進課長 携わっている医師会の先生や薬剤師等と毎年会議を開催し、何か不便がないかを聞き、その都度改善している。医師の高齢化に伴う当番の順番が懸念される。

吉永美子委員長 委託料は実績か。

銭谷健康増進課課長補佐 委託料は実績で、単価が決まっている。

吉永美子委員長 それは幾らか。

銭谷健康増進課課長補佐 内科の医師は3時間半で4万2,560円、小児科は7時間で9万3,100円である。薬剤師は内科で1万9,112円、小児科で4万1,800円、看護師は内科で7,110円、小児科で1万3,300円、医療事務は内科で6,858円、小児科は1万500円である。

大井淳一郎委員 時期にかかわらず、その金額か。

銭谷健康増進課課長補佐 繁忙期かは関係なく、12月31日から1月3日は

2倍、連休の日は1.5倍である。

吉永美子委員長 値上げの話はないのか。

銭谷健康増進課課長補佐 ない。

矢田松夫委員 薬剤師、看護師、医療事務は現役なのか。

尾山健康増進課長 薬剤師も、看護師もどこかに勤務されている方が多い。

矢田松夫委員 スタッフはそろうのか。ずっと同じ人なのか。

田中健康増進課健康企画係主任主事 都合が悪くて代わることはあるが、年間や3か月のスケジュールを医師や薬剤師に作ってもらっている。

吉永美子委員長 市はノータッチなのか。

田中健康増進課健康企画係主任主事 小児科は事務局で当番表を提示している。内科は代表の先生に調整してもらい、4か月間の当番表を提出してもらっている。薬剤師も内科と同様のシステムである。看護師は内科が4名、小児科が3名で、医療事務は内科と小児科が一緒の4名で順番に出ている。

大井淳一郎委員 レントゲンはなぜ置けないのか。

尾山健康増進課長 置いていない理由として、急患診療所が二次救急の先生方の負担を少しでも軽減するためにできる範囲で対応しようということではまっていること、レントゲンを置くためには放射線が漏れないように別の部屋を設けないといけないこと、費用が1,000万円は下らないことなどである。

吉永美子委員長 エコーはどうか。

尾山健康増進課長 問い合わせた結果、ポータブルでも400万から500万はする。

大井淳一郎委員 レントゲンやエコーのニーズはないのか。

尾山健康増進課長 ニーズはあるかもしれないが、急患診療所を始める当初からそういう検査が必要な場合は、市民病院や労災病院に協力してもらっているのでは、漏れているわけではない。

吉永美子委員長 宇部市にもエコーやレントゲンの設備はないのか。

大海健康増進課主査 エコーは把握していないが、レントゲン室はある。

杉本保喜委員 レントゲンやエコーがないことによって、医師が判断できないことがあったのか。

尾山健康増進課長 医師会等の会議で機器の要望があったことは事実である。

医師会の中では必要な医療につなげるための急患診療所という位置付けで始まったという認識である。

吉永美子委員長 休日当番医は必ず内科と外科を充てているのか。

銭谷健康増進課課長補佐 外科は人数が少ないので、耳鼻科や眼科、皮膚科の先生も入っている。

午後 2 時 2 0 分 散会

平成 3 0 年 1 1 月 2 1 日

民生福祉常任委員長 吉 永 美 子